

2006 年度

科目名 障害児指導法演習	対象学科・学年 文学部教福3回生 教育教福3回生	担当者 小田 浩伸
授業テーマ 自閉症や知的障害のある子どもの実態のとらえ方、具体的な指導方法について学ぶ		
授業の概要と目標 自閉症や知的障害のある子どもへの指導・支援を実際に体験し、実践力を身につける。子どもたちとの関わりやふれあいを通して、実態の把握や指導・支援の方法を実習すること、及び、障害のある子どもの保護者の悩みや心情等を理解することが、この授業（演習）のねらいである。今後の障害児教育や障害児保育の実践に役立つことを期待している。 ＊ 本科目は木曜(後期)4限・5限の連続授業。		
評価方法 出席状況、実践実習に参加したときの観察記録、及び、レポート等により総合的に評価する。		
テキスト 随時プリントを配布する。	著者	出版社
参考書 必要に応じて適宜紹介する。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 - オリエンテーション ①本授業（実践実習）の意義について ②授業の進め方・スケジュールについて等 ③授業に参加する上での留意事項等 - 指導・支援の活動プログラムの概要 ①子どもの紹介、スタッフ・担当者の紹介 ②歌・手遊び ③集団での課題活動 ④指導・支援の実習（個別または小グループ） ⑤保護者との話し合い ⑥事例研究（カンファレンス） - 指導・支援の実習内容 ①行動支援のアプローチ ②ことばの指導 ③コミュニケーションの指導 ④心身のリラクセーションの指導 ⑤教科の基礎学習 ⑥教材・教具の工夫 等 - 事例研究（カンファレンス）について ①子どもの様子を詳細に報告する（事実と推測を分けて報告の仕方を学ぶ） ②個別の指導プログラムの妥当性について、計画－実践－評価の観点でとらえる ③ディスカッションを通して、子どもの見方や指導内容のレパートリーを広げる ④次回の課題と準備について確認する - まとめ		